

## 巻頭ごあいさつ

国有林野事業は、一般会計化され3年目が終わろうとしています。管理経営の目標も公益的機能をより一層発揮する内容となり、中部森林管理局の業務方針も「公益重視の管理経営の一層の推進」、「森林・林業再生への貢献」、「山村地域の振興と森林の総合利用」の三つの柱で事業を進めています。

技術普及課では、中部森林管理局の業務方針の下、民有林と連携した施業の推進の検証、森林・林業技術者等の育成、先駆的な技術の事業レベルでの試行等を通じた技術開発、森林・林業への理解の情勢を図る際の技術支援などを実施してきました。

平成27年度の技術普及課で実施した業務の内で特筆すべき事業として

- 1 6月に実施した清万採種園（東信署管内）のカラマツ母樹林の環状剥皮はマスコミにも取り上げられました。カラマツ種子の不足から約30年間放置されていた採種園の結実が期待されるところです。
- 2 岐阜県揖斐川町で10月に実施された全国育樹祭は皇太子殿下をお迎えして開催され、当局からは局長・森林整備部長と技術普及課、関係署が参加しました。
- 3 ニホンジカ対策は、11月に南信署管内で高度化実証事業の一環として中部局管内で行政としては初めてのモバイルカリングを行い10頭の捕獲ができました。
- 4 三浦実験林（木曽森林管理署）は、今年度で設定から50年になることから50年史の作成に取り組み、3月に発行いたしました。
- 5 森林総合管理士の育成のため、森林技術・支援センターを拠点として技術者育成研修及び実践研修を実施し、また、中信署において当局独自の勉強会を行い森林総合管理士受験の対策を行い、今年度中部局管内の職員6名が森林総合監理士試験に合格しました。
- 6 試験研究のためのフィールド提供や協働を管内4県の研究機関と連携し、11課題について取組を行いました。
- 7 木曽森林ふれあい推進センターと名古屋事務所が連携して、木曽谷支援としての中京圏と木曽谷での交流イベントを3回開催しました。

その他の取組として、各県の森林総合管理士との連携、局技術開発課題の取組と普及、森林ふれあい推進事業の実施、ニホンジカ動向調査などを実施して参りました。

各事業を実施するに当たり局各課はもとより各署、各県・関係市町村、林業事業体等の皆様のお力添えをいただきありがとうございました。

来年度も新たな視点で関係機関と連携して事業を進めて参りますので、ご意見、要望等をいただきながら取組を実施していくこととしておりますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。

技術普及課長 有井寿美男

## 目次

1	技術開発	P 2
	(1)三浦実験林 50 年史と見学会 (2)中部森林技術交流発表会 (3)国有林野事業業務研究発表会	
2	研究機関や教育関係機関と連携した技術開発等の推進	P 4
	(1) 清万採種園におけるカラマツ母樹の環状剥皮 (2) 各県の試験研究機関との連携	
3	ニホンジカ被害対策	P 7
	(1)モバイルカリングによるニホンジカ捕獲の取組 (2) ニホンジカ被害対策現地検討会	
4	民国連携の取組	P 8
	(1)森林総合監理士等連携会議 (2)国有林における森林総合監理士等による市町村への協力の推進	
5	国民参加の森づくり	P 10
6	森林・林業の普及活動	P 11
	(1)NPO 団体等との連携イベント (2)森林教室の開催	
7	全国育樹祭・全国植樹祭	P 14

## 1 技術開発

### (1)三浦実験林 50 年史と見学会

長野県木曾郡王滝村内にある「三浦実験林」は今年度、実験林の林設定から 50 周年を迎えました。

「三浦実験林」は、古くから木曾ヒノキの産地として知られている木曾森林管理署三浦国有林内にあり、冷涼多雨な気候であるため、湿性ポドゾル等のせき悪な土壌が分布し、また、その多くの地域が 2m を超えるササに覆われ、以前から更新が難しいところでした。



三浦実験林設定当時の写真

これに加え、昭和 34 年の伊勢湾台風、36 年の第二室戸台風の襲来により、三浦国有林の木曾ヒノキ林に大量の風倒被害が発生し、本地域における森林の再生は当時深刻な問題となり、この事態の打開するため、昭和 41 年に当時の長野営林局が三浦実験林を設定し、大規模の各種試験地が設定されました。

設定から今年度 50 周年を迎える「三浦実験林」のこれまでの研究成果について、関係機関、市町村や研究機関、地元関係者等に広く紹介するため、「三浦実験林 50 年史 一木曾ヒノキ林の永続に向けた天然更新技術の開発と検証一」を今年度発刊します。今後の木曾ヒノキ天然林施業の指標林として期待されることなどから、配布後はご一読頂ければと思います。

また、平成 27 年 10 月 22～23 日、王滝村において、この実験林の 50 年間の歩みと研究成果について報告する「講演会」及び「現地見学会」を開催しました。

22 日は王滝村公民館において、地元の方々はじめ約 100 名の方に参加いただき講演会を開催しました。有井技術普及課長より「三浦実験林の概要」について説明の後、長年、実験林の調査に携わって頂いています、信州大学 農学部教 岡野哲郎教授から「三浦実験林

におけるヒノキ天然更新技術開発の概要 一 50 年の歩み一」について、国立研究開発法人 森林総合研究所 森澤 猛 研究情報科長より「ヒノキの天然更新を促進させるには 一帯状皆伐更新試験を例として一」について、それぞれご講演いただきました。



王滝村公民館での講演会

2 日目は、約 50 名の参加者とともに「三浦実験林」の現地見学会を実施しました。

三浦実験林のように広大な規模で 50 年余に渡り毎年調査研究が行われている例は、日本はもとより世界でも極めて希と言われております。設定より 50 年間、多くの関係者の皆様のご努力とご協力により、長きにわたり調査研究が続けられてきたことに深く感謝の意を表するとともに、この 50 年間の成果については、今後の木曾ヒノキ天然林施業の指針として期待されていることから、引き続き、実験林の調査を実施していきたいと考えています。



森林総合研究所 森澤研究情報科長の現地説明

## (2) 中部森林技術交流発表会の開催

平成 28 年 2 月 2 日～3 日にかけて、中部森林管理局大会議室において、「平成 27 年度中部森林技術交流発表会」を開催しました。

この発表会は、管内の国有林及び民有林の行政・教育・研究機関、団体等が、森林・林業に関する試験研究、技術開発等、日頃からの取組の発表を通じて交流を図り、地域における森林・林業の推進と普及に資することを目的として毎年開催しています。

今年度は、国有林関係から 20 課題、民有林・学校関係等から 11 課題、合わせて 31 課題と過去最高の発表課題数となりました。

発表は「森林技術」、「森林ふれあい」、「森林保全」の部門ごとに、林業の低コスト化や地域と協働した取組や独自に着目して掘り下げた課題や新たに取組まれた技術開発課題など、勉学・業務研究により得られた成果について行われました。今年度は、今までにない多くの課題を応募いただいたことから、発表者・聴講者等を含め 2 日間で延べ約 400 名と多くの参加者により盛大に開催されました。



桂川局長による開会の挨拶

中部局では、引き続き、森林・林業技術の推進と普及に向け、各署等での技術開発、地域との連携など、民有林関係者との協働・協調を深め、情報発信に積極的に取り組んでいくことにしていますので、引き続き、宜しくお願いします。

## (3) 国有林野事業業務研究発表会

平成 27 年 12 月 10 日、農林水産省 第 3 特別会議室、共用第 10 会議室において、「平成 27 年度 国有林野事業業務研究発表会」が開催されました。

この発表会は「森林管理局等における現場業務の実行を通じて得られた森林の効率的な整備手法や森林環境教育の推進、森林生態系の保管理の取組等について発表することにより、これら成果の普及を図るとともに、今後の業務研究を一層推進し、併せて研究課題への取組を通して、人材育成に資すること。」を目的として毎年開催されています。

発表は部門毎に行われ、今年度、中部局からは、森林技術部門に中信森林管理署と愛知森林管理事

～ 優秀賞受賞課題 ～

『奈良本山ヒノキ人工林天然更新試験地における施業について』

東信森林管理署 畠山 弘一  
信州大学 大学院 大塚 大

『コンクリート構造物施工困難箇所における改良工事の取組事例』

木曽森林管理署 守屋 徹郎  
吉越 秀一

『7. 9 南木曽町豪雨災害からの復旧 ～発生直後からの経過と対応～』

南木曽支署 祐成 亮一  
中村 信吾

『二次林及び針広混交林におけるウダイカンバの活用を目指して』

富山森林管理署 松原 正志  
古賀 有紀

『ヒノキ天然林における結実豊凶と小面積皆伐後の実生の消長』

木曽森林管理署 久保 喬之  
今井 歩



受賞者の皆さんで記念撮影

務所、森林ふれあい部門に南信森林管理署、森林保全部門に木曽森林ふれあい推進センターの 4 署



発表する 中信署 堀内さん

(所)より発表しました。

発表の結果、中信森林管理署の発表が「林野庁長官賞（最優秀賞）」、南信森林管理署と愛知森林管理事務所が「優秀賞（林野庁長官賞）（林業機械化協会会長賞）」を受賞しました。

～ 発表課題・発表者 ～

#### ■森林技術部門

『コンテナ苗植栽技術の開発・普及に向けた取組』  
林野庁長官賞（最優秀賞）

中信森林管理署 堀内志保  
青島雅俊

『トータルコスト削減への挑戦！～伐・造一貫作業システム in 愛知～』

林業機械化協会会長賞（優秀賞）  
愛知森林管理事務所 鈴木健二  
中谷淳視

#### ■森林保全部門

『木曽駒ヶ岳における植生復元作業について（10年間の取組み）』

木曽森林ふれあい推進センター 小林伸雄  
東京コンサルタンツ株式会社 藤田淳一

#### ■森林ふれあい部門

『遊々の森の活動を振り返って ～「多摩市民の森・フレンドツリー」～』

林野庁長官賞（優秀賞）

南信森林管理署 新川雄大  
多摩市立八ヶ岳少年自然の家 五味直喜



受賞者の皆さんで記念撮影

## 2 研究機関や教育関係機関と連携した技術開発等の推進

### (1) 清万採種園におけるカラマツ母樹の環状剥皮

カラマツ材は割れや狂いが生じやすく、かつては用途が限られていましたが、加工技術の進歩等により合板や集成材への需要が増え、価値が見直されています。しかし、優良な種子の不足により苗木が全国的に不足しています。業界からの要請で、昨年度は中部森林管理局では、東信森林管理署管内の長野県北佐久郡御代田町にある清万採種園で約78kgの球果を提供しました。引き続き優良な種子の安定的に供給に向けて、同採種園において、カラマツの種子結実を促すための技術講習会を開催しました。



環状剥皮の講習会（平成27年6月2日）

国立研究開発法人森林総合研究所林木育種センター育林部指導課 久保田技術指導役から結実促進のための採種園管理の方法や着花促進に有効である環状剥皮について指導を受け、参加者39名（林木育種センター、山梨県、長野県、関東及び中部森林管理局、東信森林管理署）で40本の環状剥皮を行いました。



鉋を使って木部が露出するまで樹皮を剥く

カラマツは自然結実の年齢が遅いこと、豊作が7年毎と豊凶の波が著しいことなどから結実促進の必要があります。環状剥皮は、樹皮を円周状に剥ぎ取ることで刺激を与えて花芽分化を促す方法で、カラマツに一定の効果が認められています。今回は、剥皮の幅や剥皮の環を2段、3段と組み合わせ実施し、今後その着花効果について経過観察を継続していきます。

## (2) 各県の試験研究機関との連携

新たな技術の開発・調査と民有林への普及を目的に各県試験研究機関や教育関係機関と、連携課題を整理し取り組ました。今年度の主な連携課題は以下のとおりです。

### ■長野県林業総合センター

#### ①カラマツ種子の豊凶調査

着果量調査、採種園整備に伴う推奨品種標示



採種園 推奨品種調査（東信署）

#### ②コンテナ苗を活用した低コスト造林技術の実証研究（伐採から造林の一貫作業システム）



伐採・造材作業（東信署）



植栽工期調査（北信署）

#### ③生産性向上に向けた取組



生産性向上プロジェクトチーム会議（南信署）



生産性向上モデル事業地（東信署）

### ■岐阜県森林研究所、岐阜県立森林文化アカデミー

#### ①ヒノキのコンテナ苗低コスト造林実証試験



コンテナ苗用器具での植栽（東濃署）



根鉢の大きさ・培地を変えたヒノキコンテナ苗（東濃署）

②生産性向上実現に向けた取組



生産性向上モデル事業地での工期調査（飛騨署）

■愛知県森林・林業技術センター

①マダクロホシタマムシの発生状況調査



粘着トラップによる発生状況調査（愛知所）

②「細り表」作成のための高齢級人工林調査



高齢級人工林（107年生）の直径等調査（愛知所）

③ニホンジカの生態に関する調査



国有林内でのライトセンサ調査（愛知所管内）

■富山県農林水産総合センター森林研究所・木材研究所

①スギ間伐木を加害する穿孔性害虫の生態解明と防除方法の開発



間伐事業地から検体の提供（富山署）

②きのこ遺伝資源の調査



遺伝資源調査のためのきのこ採取（富山署）

■信州大学農学部との連携

「中部森林管理局と信州大学農学部との連携と協力に関する協定」（H25.5 締結）に基づき、伐採と造林の一貫作業システム実行地において伐採・搬出、枝条整理、植栽の一連の作業工程の調査や、ヒノキ人工林天然更新試験地における、複層林上木伐採による損傷率調査などに連携して取組ました。



高性能林業機械による皆伐作業工程調査（北信署）

ヒノキ複層林  
損傷率調査  
（東信署）



## ■名古屋大学との連携

コンテナ苗の植付工期及び生育調査や生産性向上プロジェクトに係わる作業日報システムの分析などに連携して取組ました。



コンテナ苗調査プロットの防鹿柵設置（愛知所）



生産性向上モデル事業地での工期調査（愛知所）

## 3 ニホンジカ被害対策

### （1）モバイルカリングによるニホンジカ捕獲の取組

ニホンジカ被害対策については、捕獲と防護の両面の取組が重要となっていますが、林野庁では平成26年度からニホンジカ被害の防止に向けて全国7森林管理局においてモデル地区を設定し、地域の農林業関係者と連携を図りながら、様々な捕獲技術を効果的に組み合わせた対策を実証しています。

中部森林管理局では南信森林管理署管内の長野県伊那市長谷に所在する国有林をモデル地区として設定し、今年度、中部局管内では初の取組として「モバイルカリング」(\*)による捕獲を実施しましたので、その取組をします。

(\*) モバイルカリングとは、森林管理者による厳重な安全管理のもと、林道脇に複数の給餌場所を設置し、昼間誘引したニホンジカを林道上で車両内外から発砲し効率的に捕獲する手法のことをいいます。移動するという意味の「モバイル」と、狩猟とは異なり計画的に個体数を間引きするという意味の「カリング」を組み合わせ命名した造語です。



捕獲率の高い早朝と日没前を集中的に捕獲を実施

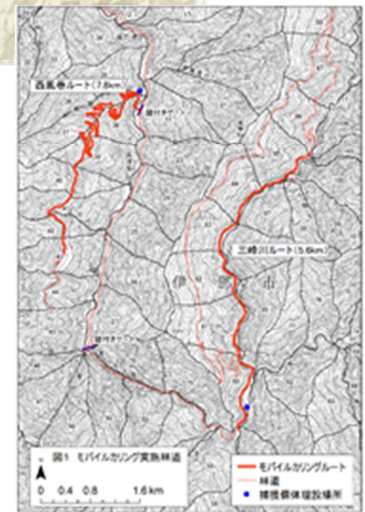
### 1 場所の選定

浦国有林の西風巻林道、三峰川林道の2箇所を設定しました。

#### 【選定理由】

- ニホンジカの越冬地(南アルプス)
- 車両・人の規制が容易

### ・ニホンジカの警戒心が薄い



### 2 取組内容

- (1) 餌による誘引…10月15日に開始し10月中は3日に一度、11月中は毎日実施。
- (2) 車両からの捕獲……11月4日～6日、11月10日～12日 の計6日間実施。
- (3) センサーカメラでのシカの動向調査……ルート沿いで捕獲実施の前後1ヶ月誘引地点で誘引開始から捕獲終了まで実施。

### 3 実施体制

役割	餌まき班	規制班	捕獲班（同一車両の乗車）			回収班
			運転・指揮	射手	記録	
人数	2	1	1	1	1	2

### 4 成果

#### (1) 捕獲頭数

性別・成幼別	成獣♂	成獣♀	幼獣	計
頭数	2	6	2	10

#### (2) 群れのサイズと捕獲数

群れのサイズ	出現数	発砲機会	捕獲頭数
1頭	8	2	2
2頭	14	5	6
3頭	2	1	2
4頭以上	3	—	—
計	27	8	10

※4頭以上の群れが出現してもスレジカを作らないため発砲しない。

#### (3) 群れのサイズと捕獲成功率

群れのサイズ	1頭	2頭	3頭
1頭(2回)	100%	—	—
2頭(5回)	80%	20%	—
3頭(1回)	—	100%	—
4頭以上(1回)	—	—	—

※ ( ) は発砲回数



捕獲個体の重量を計測

### 5 考察

- (1) 出没回数が少ない……暖冬で移動が遅れた。夜間の誘引はできていたが、昼間の誘引までには至らなかった。
- (2) 逃走率が高い……車両に慣れていない。谷底地形で見失いやすい。
- (3) 捕獲頭数を増加させるためには、積雪期や春先の残雪期での実施や誘引期間の延長が考えられる。

### (2) ニホンジカ被害対策現地検討会

ニホンジカ被害対策として平成23年度から取り組んでいる固定式「囲いワナ」による捕獲について、年々捕獲頭数は増加しているものの、費用対効果からみると課題がある状況となっているところから、囲いワナの今後の取り扱いを検討するため、平成27年9月9日に東信森林管理署及び南信森林管理署管内において有識者、行政機関、猟友会等が参加した検討会を開催しました。

午前は、「囲いワナ」の設置状況の視察場所確認、これまでの捕獲状況や出没状況、信州大学と連携して取り組んでいるデコイ（罠として設置したニホンジカの模型）を設置して誘引効果を検証する取組等を説明しました。



現地検討会の様子

午後は、長野県長和町和田コミュニティーセンターにおいて、「囲いワナの特徴」、「ニホンジカの季節移動」について有識者から講演をしていただいた後、参加者による意見交換を行いました。

意見交換での主な意見は、■囲いワナの構造的には問題ないが、その前の段階（設置場所の選定など）に問題がある。■森林内に大型の囲いワナを設置している例はまれ。■森林内では成果が上がらないのではなく、囲いワナの能力。などの意見が出されました。

検討会での意見や局ニホンジカ被害対策プロジェクトチーム等において、効率性や費用対効果等を検討した結果、現行の固定式囲いワナは取り止め、今後はニホンジカの出没状況に応じて簡易に設置できる移動式囲いワナの活用を含めた対応を行うこととしました。



長和町での意見交換会



## 民国連携の取組

### (1) 森林総合監理士等連携会議

民有林・国有林の森林総合監理士等が一堂に会し日頃の活動報告、森林施業プランナーとの意見交換、二ホンジカ被害対策、コンテナ苗などの知見を深めることを通じ今後の活動に生かすことを目的に、中部ブロック准フォレスター研修並びに技術者育成研修を受講した者など、5県（滋賀、石川、岐阜、長野、愛知）の民有林関係者九名、中部森林管理局職員28名参加のもと森林総合監理士等連携会議を11月5日～6日の二日間に渡り岐阜県下呂市、中津川市で開催しました。

1日目の全体会議では、森林総合監理士として活動を進める際に森林施業プランナーとの連携が重要であることから、岐阜県揖斐郡森林組合の後藤プランナーと南ひだ森林組合の日下部プランナーの2名にプランナーとしての活動報告や、参加者から事前に聞き取った質問事項などについて回答していただく形で経験談を交えて意見交換を行いました。



森林施業プランナーとの意見交換(岐阜県下呂市)

各プランナーからは、森林総合監理士の認知度が低いと言った指摘や、「国有林が森林所有者を対象に間伐実行時の見学会を開いてはどうか」と言った助言をいただきました。

2日目は東濃森林管理署管内湯舟沢国有林において、コンテナ苗に関する現地検討会を実施しました。



専用器具によるコンテナ苗の植栽

東濃署総括森林整備官より伐採・造林一貫作

業システムや二ホンジカ被害対策の取組について、森林技術・支援センター森林技術普及専門官よりコンテナ苗専用植栽器具について、岐阜県森林研究所渡邊専門研究員より岐阜県におけるコンテナ苗研究の取組について説明を受けた後、実際にヒノキコンテナ苗を専用の植栽器具を用いて植栽を行いました。

コンテナ苗を初めて見た参加者からは、他地域での取組事例は新たな知見が得られ参考になったとの意見がありました。

その後、中津川市加子母の森の合板協同組合森の合板工場において佐藤理事より合板ができるまでの流れについて工場をご案内いただき、生産体制や原木の入荷状況等について説明を受けました。

2日間を通じ、参加者同士の情報交換はもとより、国有林等をフィールドとした技術・知識の共有の良い機会となりました。



コンテナ苗植栽地で記念撮影

### (2) 国有林における森林総合監理士等による市町村への協力の推進について

平成27年9月26日付けで林野庁長官通達「国有林における森林総合監理士等による市町村への協力の推進について」が発出されました。

これは、国有林の森林総合監理士等がより一層、他の森林・林業関係者との連携を深め、都道府県の森林総合監理士等と連携を図りつつ、地域の実情に応じた体制を整備して地域的な視点に立った森林づくり支援をしていくことや、職員の森林総合監理士への登録を更に進めるために発出されたものです。

中部森林管理局も県担当部局と調整を図ったうえで、平成27年12月25日付けで管内4県へ協力依頼を通知し、県と森林管理署等の森林総合監理士等がそれぞれの特性を活かし効果的な連携を進めていくための「林業技術推進チーム(仮称)」の設置などにより、これまで以上に連携して市町村等の技術的援助を推進することとしました。

なお、本通達による国有林の取組のプロセスを実地で検討し、他地域での定着を図るための「ケーススタディ地区」を設定することとなり、中部局では中信署、木曽署、岐阜署においてケーススタディ地区を設定し今後の取組を検証、普及することとしています。

## 5 国民参加の森づくり

小中学校等の児童をはじめとした体験活動や、企業等の社会的責任（CRS）を果たす活動、森林資源を持続的に確保することを目的とした整備活動など、国民からの多様な要請に応えるため、国有林のフィールドや森林資源を活用できる「国民参加の森林づくり」を推進しており、中部局では現在、39箇所で開催締結し森林整備等の活動を行っています。

特に、「木の文化を支える森林づくり」は、大径材や特定の樹材種に依存している工芸品や祭礼行事等の資材を確保するための森林整備・保全活動を行うための協定であることから、国有林でなければ対応できない取組です。

今回、昨年3月に締結した「御柱の心をつなぐ森」の活動を紹介します。

平成28年春の諏訪大社御柱祭に向け上社御柱用材のモミの伐採が平成27年9月16日～10月5日の間、長野県上伊那郡辰野町横川国有林で行われました。

これまで、上社の御柱用材の伐採は、祭り直前の3月に行われるのが慣例ですが、今回、御柱用材を供給する横川国有林が急傾斜で、冬期は降雪及び凍結により作業が困難なため、時期を早めて実施されたものです。初日の9月16日は最も太い「本宮一」と「本宮三」の二本の伐採が行われました。

当日は、諏訪大社の神職や氏子ら約130名が参加して、本宮（諏訪市）と前宮（茅野市）に建てる御柱用材8本を順番に回り、伐採を指揮する「山作り衆」により上社特有の神事である朱塗りの「神斧」による斧入れと鋸入れが行われました。



「神斧」による斧入れ

その後、目通り（目の高さ）周囲3・35㍍と上社で最も太い本宮一之柱は古式に則り斧とのかざりを使い「協力一致」の合い言葉の下、伐採作業が慎重に進められました。

作業開始から5時間、めきめきと音を立てながら予定した山側へ御柱用材が倒れると、見守っていた氏子衆から歓声や万歳が沸き起こりました。



音を立てて倒れる御柱用材

上社の御柱用材は、伝統的に御小屋山（茅野市）から調達していましたが、昭和34年の伊勢湾台風により倒木被害に遭い御柱用材の供給は難しい状況が続き、東侯国有林や立科町の町有林、蓼科山国有林から調達してしのいできました。

今回縁あって横川国有林からの供給が決まったことを契機に、昨年3月、大総代経験者らでつくる「自然と地域と人を結び協議会」と南信森林管理署が木の文化を支える森として、「御柱の心をつなぐ森」の名称で協定を結び、今後はモミの植樹や森林整備活動を行う予定です。

伐採された御柱用材は、集材機及びグラブ等により林道上まで引き上げられ、横川国有林の麓にある辰野町の複合施設「かやぶきの館」に仮搬出されました。3月に茅野市と諏訪郡原村境にある曳航開始地点の「綱置場」に並べられ、4月2日～4日に上社山出しを行い、5月3日～5日の里曳きを迎えることになります。

今後は、伐採跡地へ後継樹となるモミの植栽や二ホンジカによる剥皮被害を予防するためネット等による保護を行うこととしています。

中部森林管理局管内の木の文化を支える森 H27年度末

名称	所在地	面積 (ha)
道祖神祭りの森	長野県 野沢温泉村	17.39
戸隠竹細工の森	長野県 長野市	389.97
御柱の森	長野県 下諏訪町	383.46
御柱の心をつなぐ森	長野県 辰野町	14.36
檜皮の森	長野県 南木曽町	71.36
南木曽伝統工芸の森	長野県 南木曽町	3.16
裏木曽古事の森	岐阜県 中津川市	23.20
計	7箇所(4署)	902.9

## 6 森林・林業の普及

### (1)NPO 団体等との連携イベント

豊かな自然環境に恵まれた国有林をフィールドに各地域で森林環境教育や保全活動等の活動を行っている団体の方々と連携して、各地でイベントを行いました。

日 時	イベント名・実施場所	内容	実施団体
6月27日(土)	「信越トレイル自然環境調査」 (関田峠～伏野峠)	専門家と共に歩き、林内の動植物調査や倒木の処理、枝払い等の整備	NPO 法人信越トレイルクラブ事務局
6月28日(日)	「～白い巨木～根菘先生と巡る巨木ブナ総回診」 (鍋倉山中腹及び牧峠周辺)	樹木医による巨木ブナ「森太郎」「鬼ブナ」の健康診断	いいやまブナの森倶楽部
7月25日(土)	「初夏の高山帯自然観察会」 (岐阜県高山市丹生川町)	乗鞍岳での移入植物除去、希少野生動植物保護、自然観察会ほか	NPO 法人 山の自然文化研究センター
10月17日(土)	～晩秋の上高地を満喫～ (長野県上高地)	秋の上高地を森林散策	NPO 法人 やまぼうし自然学校
1月17日(土)	冬の軽井沢 千ヶ滝 (軽井沢国有林)	冬の軽井沢の森をガイドの案内で森林散策	NPO 法人 やまぼうし自然学校
2月27日(土)	パワースポット戸隠へ ～冬の森でリフレッシュハイク～	冬の戸隠の森をスノーシューを履いて森林散策	NPO 法人 やまぼうし自然学校

パワースポット戸隠へ  
～冬の森でリフレッシュハイク～ からのスナップ



戸隠連峰をバックに記念撮影



雪面には動物の足跡がいっぱい



雪のうえで温かいスープ

### (2)森林教室の開催

森林管理署・森林管理事務所・ふれあい推進センターでは、各地域からの要請に応じた内容で、森林環境教育に取り組んでいます。

今年度、技術普及課に依頼のあった3件の森林教室の事例を紹介します。

#### ■平成27年6月27日(土)

市内裾花小学校3年生から、「森林の持つ役割を教えてほしい、箸づくりを体験してほしい。」と要請がありました。そこで、教室の半分を使ってネイチャーゲームを取り入れた森林教室を、もう半分でマイ箸作りを体験してもらいました。

森林教室では遠巻きに見ていた保護者も、箸づくりでは親子で協力して取り組む姿が見られ

ました。ヒノキの匂いに触れ、かんなくずも入浴用におみやげとしました。



親子でヒノキを削ってマイ箸づくり

## ■平成 27 年 7 月 3 日（金）

市内芹田小学校 3 年生から、「親子で体験できる木工クラフトを教えてください。」と要請がありました。

ネイチャーゲームで気分が盛り上がったところで森林教室を始めました。森林の果たす役割のこと、森づくりに必要なこと、国有林では何をしているかなどを質問しながら説明したところ、子供たちは元気よく応えてくれました。クラフトづくりでは、材料は、国有林の除伐木から集めた輪切り材や枝などであることを伝え、樹種による違いを感じてもらい、作った作品は大切に持ち帰ってもらいました。



教室で木工クラフト

## ■ 11 月 6 日（金）

千曲市植生小学校からは 5 年生が、社会科授業で森林・林業のことを学習するので基礎知識を教えてくださいと庁舎の見学を兼ねての社会見学受入れの要請がありました。

当日、2 クラスずつ、二回に時間を分けて大型バスで到着した児童たちは、庁舎の展示物に興味を示しつつ大会議室へ。

まず森林・林業のことをどれくらい知っているか「グーチョキパーアンケート」を行い、緊張を解きほぐしつつ児童たちの理解度に合わせた説明をスライドで行いました。世界の森林、日本の森林、長野の森林へと徐々に身近な場所へフォーカスし、森林の現状や生活に果たす役割、林業の抱える課題にも触れました。高性能林業機械の DVD を観ながら、「現在の林業ってかっこいいね！」とイメージアップも図りました。

大会議室内には林業機械のミニチュア模型や森林官の装備を展示し、ナタ(二丁差し)の重さには驚きの声も上がりました。



大会議室で、森林や林業について勉強

## 7 全国育樹祭・全国植樹祭

平成 27 年 10 月 11 日に岐阜県揖斐川町にて第 39 回全国植樹祭が、また、育樹祭の併催行事として「全国緑の少年団活動発表大会」「育林技術交流集会」「森林・林業・環境機械展示実演会」が岐阜県内の各地で開催されました。飛騨署、岐阜署からの木工クラフト等ブース出展をはじめ、局・署からも多数参加しました。



式典のクライマックス：「百年の森づくりリレーで岐阜県内の 42 の市町村を回った丸太が立ち上げられ、その頂に百年先の大木を願う梢が挿された。

管内では、岐阜県の全国育樹祭に引き続き、平成 28 年度は長野県、平成 29 年度は富山県で全国植樹祭が開催されます。

平成 28 年度の全国植樹祭は「ひと ゆめ みどり 信濃から未来へつなぐ森づくり」をテーマとして、長野市の M ウェーブをメイン式典会場として、更に県内 10 箇所に県民植樹会場を設け、県全域で展開される広域開催型の大会となります。

平成 29 年度の全国植樹祭は、富山県魚津市桃山運動公園を式典会場に開催されます。26 年度の新潟県、27 年の石川県と北陸、信越地方での開催が続いています。

### 編集後記

1 年間の技術普及課の取組の報告として『技術と普及の窓』（第 7 号）発行の運びとなりました。各事業でお世話になった皆様には、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

今後とも、当課の取組に御意見・ご指導を引き続きよろしくお願いいたします。

編集者一同

